

テーマ 「図書館の外で発信する本の魅力～新規層に足を運んでもらうために～」

小松市立高等学校 石村 萌乃果

1 はじめに

本校図書館では、季節ごとのコーナー展示や、手作りPOPの作成・掲示、スタンプラリーや読書週間などの活動を図書委員が主体となって活発に行っている。特にPOPやコーナー展示には力が入っており、来館する生徒達に喜ばれている。

しかしそれでも年々少しずつ利用者・貸出冊数が減ってきている。問題は、入学当初のオリエンテーションで来館したきりほとんど足を踏み入れていない生徒達がいることだ。折角の図書館での展示や活動も、まず来館してもらえないことには貸出につながらない。

そこで、あまり図書館に来ない生徒たちの来館のきっかけを作るべく、試行錯誤しながらいくつかの取組を行った。

2 実践の概要

(1) 校内ビブリオバトル

本校では毎年開催していたが、図書委員を中心に図書館の中で行っていた。図書館の外からはあまり様子がわからず、参加しない生徒はその様子を見ることはなかったため、校内での認知度はあまり高くなかった。そこで会場を変更し、生徒玄関前に位置するロビーで行った。ロビーは人通りが多く、吹き抜けで声もよく響くため、より多くの生徒の注目を集める狙いがあった。スクリーンやマイクなども設置し、例年より会場設営の規模も大きくして開催した。



当日は、図書館ではあまり見かけない生徒達が様子を見て気になって集まってくる様子や、教員が足をとめて観戦している様子などが多くみられた。結果投票数はかなり増加し、例年のない盛り上がりとなった。後日ビブリオバトル

を見て来館した生徒や、紹介されていた本を借りたい生徒達が来館し、貸出数・来館者数増加につながった。

(2) 朝読書週間の移動図書館

本校では数年前から学期末に朝読書の期間を導入しているが、期間中さらに積極的に本を借りてもらうために、朝読書週間限定で移動図書館を実施した。教室前の廊下に係の生徒達が選んだおすすめ本を乗せたワゴンを設置し、その中から本を選ぶとその場で本を借りることができる。ただし、返却時には図書館を訪れる必要があるため、来館のきっかけにつながることを狙った。

試験的に2年生のみを対象として実施したが、初日から利用者が多くみられ、係の生徒達から内容の紹介を聞いて本を選ぶ様子や、実際に手に取りながらじっくりと選んでいる様子も見られ、生徒たちが本に触れる機会を増やすことができた。今後はさらに大きく宣伝をしながら、1・3年生の教室前でも実施予定である。



3 今後の課題

今回は、普段あまり図書館に来ない生徒たちを対象に、本や図書館に興味を持ってもらうため、様々な取組を行った。今後はさらに幅広い生徒たちが図書館に来る機会を増やすため、授業内での図書館利用を教員に促していきたいと考えている。また、全校生徒を対象に読書推進に関連した講演会も企画している。

より多くの生徒に図書館に足を運んでもらえるよう、これからも工夫を凝らしていきたい。